
その他 学部でのポートフォリオ導入に向けた研修会実施報告

Workshop enforcement report for the portfolio introduction in the department

近藤純子 福山智子 松月みどり

Junko KONDO, Tomoko FUKUYAMA, Midori MATSUZUKI

〈そ の 他〉

学部でのポートフォリオ導入に向けた研修会実施報告

Workshop enforcement report for the portfolio introduction in the department

近藤純子 福山智子 松月みどり

東京医療保健大学 和歌山看護学部

Junko KONDO, Tomoko FUKUYAMA, Midori MATSUZUKI

Wakayama Faculty of Nursing Tokyo Healthcare University

要 旨：目的：和歌山看護学部でのポートフォリオ導入に向けて、学部教員が共通理解を持ち、共通の姿勢で学生に関わるためには、研修会を実施する必要があった。研修会における目的達成度を把握するために研修終了後行ったアンケートにて、研修実施評価を行うこととした。

方法：研修会に参加した教員28人を対象に無記名記述式アンケートを行い、アンケート内容を質的に分析した。

結果：アンケート回収率は89.3%（有効回答率100%）であった。研修参加にあたり、ポートフォリオに関する理解や活用を目標として参加したものが多く、研修で身についたと思われることとして、ポートフォリオに関する理解や活用、学生の主体性に働きかける関わりに関する記述が多かった。また、参加してよかったと思う点については、知識の整理・共有や意見交換の機会となったことが挙げられていた。

結論：アンケート結果より、研修会目的は概ね達成された。

キーワード：ポートフォリオ、研修会、アンケート調査

Keywords：Portfolio, Workshop, Survey of questionnaire

1. 目的

ポートフォリオ（portfolio）とは、もともと建築家、ジャーナリストやカメラマンがもっている「作品ファイル」を意味し、パラパラとその全体を見ることで、その人の能力やセンス、個性、考え方などを知ることができる¹⁾。また、自らがこれまでの作品を振り返ることで、今後の自分の課題や目標も明確になってくる²⁾。

ポートフォリオは、実績や成果にいたるプロセス全てを綴じた1冊のファイルで、情報を一元化したもの¹⁾とも言われており、教育現場の実践報告に認められる効果として、学生が主体的で能動的な学習ができる^{3) 4) 5)}や、その作成を通して自分の学習を振り返り、学習成果を確認して達成感を味わうことができる

と共に、自分の学習を適切に評価するための自己評価力を養うことができる、などの学習効果が報告されている⁶⁾。

ポートフォリオ活用は、和歌山看護学部のカリキュラム・ポリシーにある3つの育成能力である『看護実践能力』、『課題対応能力』、『自己教育力』のうち、『課題対応能力』と『自己教育力』に寄与し、学生が主体性をもってこれらの能力を育成していく仕組み作りと位置づけることもでき、それは、本学の建学の精神および理念・目的にある「これからの社会が抱える様々な課題に対して、新しい視点から総合的に探究し解決することのできる人材の育成」にもつながっていくと考える。

和歌山看護学部でポートフォリオを導入することで、4年間の大学教育で『自己教育力』を培った学生

が育ち、就職病院でも自学自習の姿勢で学び続けることが期待できる。A看護専門学校でポートフォリオを導入した理由のひとつとして、卒業生の大半が就職するB病院において就職後1年未満で離職する卒業生が多いことを挙げていた⁷⁾。ポートフォリオ導入後、新人離職率が大幅に低下したと報告されており、教育面以外にも導入メリットがあると考ええる。

目標達成に向けて効果的にポートフォリオを作成する必要条件の1つとして、指導者と学習者が共に目的・効果を正しく理解し、目標達成のために自らのポートフォリオを作成したいという動機づけを持てること²⁾、を挙げており、和歌山看護学部でのポートフォリオ導入のためには、指導者としての教員を対象とした研修や理解定着のためのグループワークを行い、学習者としての学生を対象とした導入時の説明と動機づけが重要になる。

和歌山看護学部では導入準備に際し、学部教員を対象としたニーズ調査を2018年5月に終えており、その結果より、多くの教員がポートフォリオに関する実践や知識が少ない状態であることが明らかとなった。教員がポートフォリオに対して共通理解を持ち、共通の姿勢で学生に関わるためには、導入に向けて研修を実施する必要がある。研修終了後行ったアンケートを用い、研修の評価を行うこととする。

2. 方法

1) 対象:和歌山看護学部の教員(2019年度就任予定教員も含む)のうち、2018年度ポートフォリオ研修会に参加した28名とした。

2) 研究方法:

(1) 研究デザインは、質的記述的研究である。

(2) 調査方法:調査に際し、アンケートは、参加者の特定を防ぎ、率直な意見を述べられるよう無記名記述式とした。アンケート内容は、研修における目的達成程度を把握する質問内容とするために、全学FD推進プログラムの実施報告⁸⁾を参考にした。

その実施報告では、プログラムの成果と課題を明らかにするため、①参加者の自己目標は何か?身に付けたいスキル・知識はあるか?②研修で身に付いたと思われることは何か?③参加して良かったと思われる点は何か?④研修内容について改善すべき点は何か?について自由記述で問うている。本研究において明らかにしたい点と一致していたため、質問文の一部を研修に合わせた表現に変え、採用することとした。アンケートの

回収は、会場に設置したアンケート回収ボックスへの提出、もしくは学生のレポートボックスを活用し、後日提出できるようにした。後日提出期間は、研修開催日から4日間設けて記述時間が十分に確保できるようにし、提出には電子データ入力後の印刷物も使用できるよう、アンケートの電子データを研修後、参加者に送付した。アンケート調査への協力は、研修開始前にアナウンスし、研修終了時に調査表を配布、依頼した。アンケート調査への協力は強制ではなく、調査表の提出をもって研究へ同意したとみなすことを伝えた。

(3) 分析方法:回収したアンケート内容をエクセルデータとして入力し、アンケート項目ごとに、記述内容を意味内容からカテゴリー化し、記述内容の特徴を質的に分析した。分析にあたり、研究責任者が記述内容のカテゴリー化を行い、共同研究者2人にカテゴリー化した内容の確認を求め、分析を進めた。

3) 調査場所:東京医療保健大学和歌山看護学部内の研修会会場、および指定したレポートボックスとした。

4) 調査期間:2019年3月29日~2019年4月2日とした。

5) 倫理的配慮:研究対象者であるポートフォリオ研修会参加者に対して口頭で、研究主旨と、研究への参加は強制ではなく自由意思によるものであり、研究への不参加により如何なる不利益も受けることがないことを説明した。

6) 研修会:

(1) 企画準備:ポートフォリオ関連の先行研究を確認するとともに、ポートフォリオ関連研修に参加し、さらにポートフォリオをカリキュラム全体に組み入れているB看護学校を視察し、活用方法に加えて学生の様子を把握した。それらを踏まえて研修方法・内容は検討を重ね、学術的内容を基調講演として教育分野の講師に依頼し、ポートフォリオ活用の実践を実践報告として看護分野の講師に依頼することとした。

(2) 内容:研修の目的は、①ポートフォリオの基礎を知り、イメージを具体化する、②ポートフォリオ導入例を通し、使用機会と方法への理解を深める、とした。教員が研修へ主体的に参加してもらうため、研修の目的に加えて、教員自身の目標をもって研修参加するよう事前に呼びかけた。基調講演や実践報告から得られた多くの示唆をふりかえりながら、実際の教育場面での活用を領域単位のグループで考える機会となるよう、研修を組

表1 ポートフォリオ研修会スケジュール

時間	内容	
10:00-10:05	開会の挨拶	和歌山看護学部学部長 八島妙子
10:05-11:30	基調講演	ポートフォリオについて 京都大学大学院教育学研究科 教授 西岡加名恵
11:30-11:40	休憩	
11:40-12:25	実践報告	看護におけるポートフォリオ 松下看護専門学校 副学校長 水方智子 教務主任 大谷弘恵
12:30-13:15	昼休憩	
13:15-13:45	実践報告	千里金蘭大学 看護学部 教授 藤原尚子 講師 藤澤盛樹
13:45-14:30	グループワーク	水方智子、藤原尚子 藤澤盛樹、進研アド・北野美和
	ファシリテーター	
14:30-14:40	休憩	
14:40-15:40	グループ発表	水方智子、藤原尚子 藤澤盛樹、進研アド・北野美和
	講評	
15:40-15:55	まとめ	アンケート記入、修了証授与
15:55-16:00	閉会の挨拶	和歌山看護学部学部長 八島妙子

み立て開催した。詳細は表1（研修会スケジュール）に示す。

3. 結果

1) 研修会アンケート結果

- (1) 回収率は89.3%（有効回答率：100%）であった。
- (2) アンケート項目の記述を項目ごとに記載する。（「」内は原文のまま）

① 『今回の研修に参加するにあたってのご自身の目標はどんな内容でしたか？』

- ・ポートフォリオに関する理解に関する記述（9件）

「理解する」、「知る」、「知識を修得する」、「概要を理解し、イメージする」、「理解を深める」、など。

- ・ポートフォリオの活用に関する記述（8件）
「活用方法を知りたい」、「領域でどのように導入できるか」、「実際に行っていくうえでの利点・欠点」、「教科の学習に導入する」、など。

- ・ポートフォリオの目的と意義に関する記述（2件）

- ・ポートフォリオの評価法に関する記述（2

件）

- ・主体的学びに関する記述（2件）

「学生が主体性を持てるようなスキルの理解」、「学修者の主体的学びの実現に向けたシステムを学ぶ」。

- ② 『今回の研修に参加して身についたと思われることが、どんなことでしょうか？』

- ・学生の主体性に働きかける関わりに関する記述（11件）

「学生が主体的になるような関わりが大切」、「形はどうあれ学生は学ぶことが理解できた」、「ポートフォリオはツールであり、明確なビジョンが必要ということ」、「学生の主体性をつぶさないように学びたいことと学んでほしいことを一致するよう導く」、「勉強すべきことがたくさんある」、「形式にこだわらず、主体性を持つ教育の効果を知れた。」「今後はビジョン、ゴールを考える教育をしたい」、「教師の願いを伝えることの大切さを重視したい」、「ビジョン・ゴールに対する考え方の強化」、「学生の主体性を尊重した教育の在り方を改めて学んだ」、「学生自身で学びを深められるような教員の関わりの重要性が分かりました」

- ・ポートフォリオに関する理解に関する記述

(9件)

「評価法のポイントを知ることができた」、
「理論について」、「効果など勉強になっ

た」、「学術的内容、実践報告について理解
できた」、「定義や意味、種類、評価方法」、
「評価する内容によってポートフォリオの種
類を変えること」、「基本的な考え方」、など。

・ポートフォリオの活用に関する記述 (8件)

「グループで方向性が共有できた」、「活用
方法」、「科目や入試などへの活用方法」、「看
護教育に生かす考え」、「実習でのメリット、
デメリット」、「何のために誰のために行うの
か目的を確認することができた」、「活用によ
って主体的に取り組むことができる」、「実習
記録不要」

・今までの教育方法のふりかえり (1件)

「本当にそれはよかったのか考えるべきだと思
った」

③『参加してよかったと思われる点はどんな点
でしょうか?』

・ポートフォリオの活用に関する記述 (9件)

「多くの実際場面などからの学び」、「実践
例を具体的に知れた」、「(記録など)「実物が見
れた」、「先進的に実践されている学校のこと
を聞いたこと」、「活用方法理解した」、「様々
な領域でポートフォリオの捉え方を知ること
ができた」、「主体的な学びのヒントが得られ
た」、「ポートフォリオを実施している様々
な段階にある教育機関の話を知ることができ
た」、「学生自身で学びを深めるためのツール
であることを理解できた」

・ポートフォリオに関する知識の整理・共有
(6件)

「共通認識をもつ機会となった」、「同じ知
識の出発点を共有」、「リフレクションシート
を用いながらグループワークしたことで内容
を整理できた」、「知っていたことも知らな
かったことも改めて聞くと、なるほどと思うこ
とが多かった」、「ポートフォリオの良い点を
知れました」、「ポートフォリオの再認識」

・ポートフォリオに関する意見交換 (5件)

「領域ごとに話し合えたことで具体的に考
えることができ、他の人の考えも聞いたこと」、
「同じ領域の先生同士で意見交換し、親
睦を深められた」、「グループワークで多くの
方の意見を聞くことができたこと」、「4月か
ら勤務される教員に会えたこと」、「領域での

グループワーク」

・今までの教育のふりかえり・教育の再考 (3
件)

「看護教育についても考える良い機会とな
った」、「教育のありかた」、「これまでの指導
方法をふりかえる機会となった」

④『研修内容に改善すべき点がありましたら、
具体的にお書きください。』

・特になし (空欄と主催者への慰労含む) (14
件)

・研修構成 (6件)

「1日研修は集中力が大切なので疲れまし
た」、「内容を整理して次のステップに移りた
かったです」、「講演された先生方の話をもう
少しじっくりと伺いたかった」、「ボリューム
がいささか大きい」、「時間がもう少しあれ
ば、ディスカッションが深められた」、「繰り
返すこと、少しずつ疑問を解消する方向で」

・研修時期 (2件)

「年度末は避けてほしかったです」、「日程」

・対象 (1件)

「本学で活用していくのであれば、全員参
加がよかったのでは」

4. 考察

ポートフォリオ研修会に際し、ポートフォリオに関
する理解や活用に関連した、自身の目標を持って参加
しているものが半数であった。これは、研修目的の
「①ポートフォリオの基礎を知り、イメージを具体化
する」と、「②ポートフォリオ導入例を通し、使用機
会と方法への理解を深める」に通じるものである。ま
た、少数ではあるが、ポートフォリオの目的と意義
や、評価法に関する目標、主体的学びに関する目標が
挙げられていた。これらは、ポートフォリオの基礎を
より具体的に表現した内容や、ポートフォリオが主体
的学びを促進するツールの1つと理解し、広義的に目
標を設定した内容とも言える。参加している教員が自
ら学びたい点を明らかにしており、受け身ではなく、
主体的に研修会に参加した表れとも言える。

アンケート項目②『研修に参加して身についたと思
われること』のなかに、ポートフォリオに関する理解
や活用に関する記述が多く認められた。記述内容は、
アンケート項目①に記載の、教員自身の研修における
目標の内容が簡潔に記載されていることに對し、ポー
トフォリオの理論や種類、評価に関する内容など、よ
り具体的に焦点化された内容が記載されていた。研修

で自身の関心あるテーマについて多くの学びがあったと考える。アンケート項目④『研修内容の改善点』に「内容を整理して次のステップに移りたかった」とあるように、今回の研修はポートフォリオに関する多くの知識や実践が盛り込まれていた。それゆえ、教育や研究として関心あるテーマをベースに聴講をした教員にとってはより深まりのある機会となったと考える。『研修に参加して身についたと思われること』には、学生の主体性に働きかける関わりに関する記述も多かった。ポートフォリオ研修会を通じて、自身の教育者としての関わりの重要性について考える教員が多かったと考える。

『参加してよかったと思われる点』では、ポートフォリオを導入している実践例に触れ、そのなかで自身の教育へのヒントを得ているようであった。更に、グループワークで領域内での交流や意見交換を行ったことで、研修で得た知識の活用場面や方法を具体的に模索できたようである。これらの経験のなかで、「看護教育を考える機会となった」と回答する教員もいた。

以上より、アンケート結果からは研修目的である①ポートフォリオの基礎を知り、イメージを具体化する、②ポートフォリオ導入例を通し、使用機会と方法への理解を深める、については概ね達成しており、それらに加えて、自身のテーマやグループワークなどで学びを深めている様子が伺えた。

『研修内容の改善点』に挙がっているが、研修会日程が諸事情により3月29日となったため、領域ごとのグループワークでは現任教員と就任予定教員の交流の機会にもなっていたが、年度末での開催となったため、就任前の引越しや職場勤務等で参加が叶わなかった教員もいた。今後の開催時期については年度末を避けた時期を優先したい。

5. 結論

アンケート結果より、付加的学びとともに、ポートフォリオ研修会の目的である①ポートフォリオの基礎を知り、イメージを具体化する、②ポートフォリオ導入例を通し、使用機会と方法への理解を深める、については概ね達成されたと言える。

6. 参考文献

- 1) 鈴木敏恵. 看護師の実践力と課題解決力を実現する！ポートフォリオとプロジェクト学習, 東京：医学書院 2010; 12-14.
- 2) 小島さやか. 文献から見た看護教育におけるポートフォリオ評価活用の現状. 新潟青陵学会誌 2012; 4 (3): 101-109.
- 3) 坂田五月, 佐藤道子, 石塚淳子. 看護大学2年生におけるポートフォリオを活用した授業実践, 聖隷クリストファー大学看護学部紀要 2013; 21: 13-23.
- 4) 杉浦暁代, 新美綾子. ポートフォリオを活用した統合実習 看護チームの一員としての複数受け持ち実習を目指して, 看護教育 2012; 53 (11): 936-943.
- 5) 藤澤盛樹, 近藤純子, 藤原尚子, 河野益美. 総合看護学実習におけるポートフォリオ導入プロセス, 千里金蘭大学紀要 2016; 13: 67-76.
- 6) 安川仁子. ポートフォリオ評価の進め方と教育的意義, 看護教員と実習指導者 2004; 1 (5): 4-13.
- 7) 水方智子. プロジェクト学習とポートフォリオ評価の導入と成功体験 (前編) 学校存続の危機を救ったプロジェクト学習. 看護展望 2015; 40 (12): 1212-1218.
- 8) 日置善郎, 川野卓二, 宮田政徳, 吉田博, 上岡麻衣子. 2013年度徳島大学全学FD推進プログラムの実施報告, 大学教育研究ジャーナル 2014; 11: 161-182.